



3月10日 東地申58号 「2021年度営業関係施策(その2)」についての申し入れ 池袋駅(ホーム体制の見直し) 団体交渉を行う!(その1)

1. 池袋駅輸送パートの体制変更に伴う業務内容の変更においては、2021年度営業関係施策その2における提案で2022年4月1日から体制変更する内容で提案されているが、2022年3月12日から池袋駅輸送パートの作業ダイヤを変更し、一部時間帯ホーム立番を省略する理由を明らかにすること。

回答: 車掌用 ITV の整備による車掌の視認性が確保され、乗降終了合図の省略が可能となることから、お客さまのご利用状況等を勘案し、作業ダイヤの見直しを行うものである。

2. 現行、池袋駅輸送パートで行っている業務内容を2022年3月12日に変更することで、2021年度営業関係施策その2における提案内容が変更となるが、支社の認識と提案時に体制変更する日を2022年4月1日とした理由を明らかにすること。また、JR東日本輸送サービス労働組合 東京地本に対し説明および提案を行わない理由を明らかにすること。

回答: 池袋駅のホーム体制の見直しは2022年4月1日であり、提案内容を変更したという認識はない。

組合

◆3・12から合図省略をする事になった経緯は?

◆10月に提案を受けて、4・1から体制見直しに伴い合図省略と言う認識だ。

なぜ、合図省略を早めたのか?

◆現場では1月のサービス勉強会で3・12に合図省略をすると聞かされて、提案内容と違う事に疑問を感じた。理由など説明は無かった。丁寧な進め方だとは認識できない。3・12に合図省略したいと言う理由でのみ進めると言うのは施策を担う社員からすると信頼度が無くなる。

◆地本としては再提案を求める。

◆地本は提案内容の変更だと認識している。今後、提案内容に関わる作業変更などが発生する場合は説明などを求める!

会社は「提案内容の変更ではなく、あくまで作業ダイヤの変更」と主張!

明らかに提案内容の変更であり、会社は組合に再提案を行うべきだ!

3. 池袋駅輸送業務において、一部時間帯ホーム立番を省略する目的と考え方、および立番の必要な時間帯の考え方を明らかにすること。また、施策実施後、現行と比較し安全性が低下しないとする考え方を明らかにすること。

回答: 車掌用 ITV の整備による車掌の視認性が確保されることから、お客さまのご利用状況等を踏まえ、乗降終了合図の見直しを行うものである。なお、お客さまの安全確保については、引き続き取り組んでいく考えである。

4. 池袋駅に新たに設置される車掌用 ITV の画像やカメラの角度については、駅社員による画像確認を行うこと。

回答: 車掌用 ITV の整備については、関係箇所において必要な確認を行っている。

◆立番の業務内容と使命についての支社の認識を明らかにすること。

組合

その2へ続く>>>

会社

◆ITV が稼働可能という事で合図を出せる体制は残しつつも、作業ダイヤの見直しを行う。体制見直しは4・1から。

◆工事の難易度が高かったため10月の提案時点では3月中のITV設置として進めてきたが、ダイヤ改正での体制見直しでは業務が輻輳することから4・1にした。設置が早まった事で、12月末にITVの整備計画について駅から支社へ問い合わせがあり、確認してITVの稼働可能日を駅に伝えた。その後、駅から3・12から合図省略をしたいと相談され、車掌の視認性について関係箇所が確認できる日程が整ったため、そのように進める事にした。3・12から合図省略をしたいという話のスタートは駅から。体制変更しないので合図省略はできると判断。 **確認!**

◆そこは受け止める。

◆作業ダイヤの変更という認識であり、再提案等はしない。

◆内容にもよるが丁寧に進めるために説明するかも含めて都度検討していく。 **確認!**

会社

◆乗降終了合図が一番大きな役割。非常停止手配、遅延時の案内、問い合わせ対応など。ホーム営業を内勤営業化して体制を付け替える。しかし、未来永劫この体制とは限らない。コロナの状況など流動が変われば作業ダイヤを見直すこともあり得ると駅とは確認している。



3月10日 東地申58号 「2021年度営業関係施策(その2)」についての申し入れ JS 湘南【池袋駅(ホーム体制の見直し)】団体交渉を行う!(その2)

組合

<3項・4項つづき>

会社

◆多客などで合図が必要になるような環境変化があった場合は、現場で作業ダイヤを変更する事は可能なのか?

◆立番の使命について、言われた通りの役割は勿論あるが、列車間合いに隣接線の状況なども把握して異常を認めた場合は対応している。常にホーム上での事故・事象を発見できるように努めて安全を確保している。

◆乗降確認ができれば安全だとは思わない。在線がない時の安全確保は?会社の安全はお客さま任せだ!

◆効率化とのバランスが必要な事は理解するが、明らかに安全性が低下すると言う認識だ。

◆モニターは常に看視しているわけではなく、事象が発生してから確認するものであり、安全を確保するものではない。列停の件数等は把握しているか?

◆1月が11件、2月が8件あり、その内社員が扱った件数は4件で全て荷挟まり。これだけ未然に防いで安全を確保しており立番は重要な位置付けだ!何で立番を無くして合図を省略する事なのに列停の件数も把握していないのか?

◆上りは11:00、内回りは9:30以降事務室が不在になり、対応に今よりも時間を要するが、会社として安全性は低下しない認識か?

◆運転再開など安全確認を取るまでに今より時間がかかる事でサービス品質は低下する。

◆ITVについては駅から立ち合いなどしたのか?

◆可能であり、そのように現場と確認してきている。判断するのは現場長。確認!

◆言われた通りの事はあるが、立番を省略するのはITVで車掌による乗降確認が可能になるからである。

◆車掌と立番の2人で見たり、常に立番が看視していれば、してないよりは安全な事は分かる。しかし、会社としても限られた資源・限られた人で効率化も考える。安全と効率化のバランスも必要だ。

◆その為に駅総体で対応にあたる。内勤にはモニターもあるので各ホームの状況が分かる。巡回も行う。確認!

◆細かい数字は持ち合わせていない。

◆見ていないわけではない。検討している段階では件数なども見てきている。

◆安全性は低下しないが、駆けつける時間は今よりも増える。

◆最小限に留めたい。しかしいつ事象が起こるか分からない場所に配置する事は、バランスも考えなくてはならない。

◆設置してからの画角などの立ち合いは駅は参加していない。

明らかに安全性が低下する体制変更にも関わらず、会社は「低下しない」と対立!

5. 3月12日以降、ホーム営業社員が業務内容を変更して南口改札業務を行う根拠を明らかにすること。

回答: 作業ダイヤは、お客さまのご利用状況等を踏まえ、駅長による定例的な業務指示・命令を図式化したものである。

◆ホーム営業社員が南改札に入る理由は?メトロ改札無人化によるインターホン対応の件数が増えていると聞いているがその対策か?

◆社員周知は?改札担当の一部社員にはホーム営業の作業ダイヤが周知されていない。

◆改札の教育は誰が行うのか?駅の教育に曖昧な部分が多い。教育項目や責任者が不明確。責任ある人が時間をかけて教育すべきだ。

組合

会社

◆多能化が目的であると聞いている。南改札にしたのは精算機など改札業務に特化して学べるからであり、メトロ改札対策の為に入れるわけではない。異常時があればホームでの対応を優先させる。

◆不十分であるなら再度周知していく。確認!

◆改札担当社員。要望があれば営トレも活用して欲しい。マニュアルなどが整備されていないのはその通りだ。

一方的な施策実施を許さず、安全で安心して働ける環境を実現しよう!